

# SMF Press

SMFに来て見て参加して! 実りの季節を楽しみませんか。

SMFの味わい豊かなおもてなし

埼玉に芸術の秋到来。県内各地で地域の特色を活かしたアートプログラムが盛りだくさんです。まずはお茶の緑広がる入間市の探訪記と催しの紹介を、どうぞご覧ください。

## 狭山茶が織り成すまち、入間市。

日差しが眩しい7月某日、入間市に行ってきました。2008年《アート竜巻フェスタ》、2009年《SMF アートのわっ!》(詳しくはSMF ホームページへ)とお世話になってきました入間市は、池袋から電車で40分と好立地のため、東京のベッドタウンとして知られています。また、美味しい狭山茶の産地でもあります。最近では、三井アウトレットパークができたことで有名です。聞くだけでいっぱい買い物したい気分になりますね(笑)。



も頼みました。デザートは別腹ですよ(笑)。

入間市駅に着いてまず、向かったのは入間市博物館アリット。ここには国内外のお茶に関する資料が豊富で、興味深いものがたくさんあります。また、敷地内にある茶室では、頻りに茶会が開かれています。

昼食後は、館内へ。「手揉み茶道場」の方々が手揉み茶の実演をしていました。見学をしていると、「やってみませんか?」と声をかけていただいたので、早速挑戦!! 見ていた時は「これならできるかも」と思っていたのですが、実際はとても大変…。手揉み茶を行う台(ほいろ)は茶葉の水分を飛ばすために足下にヒーターがあり、モワッとした熱気が顔に当たります。その台で「手揉み茶道場」の方々は、既に4時間も茶葉を揉み続けていました。手揉み茶に苦戦していると、熟練の方がお手本を見せてくださいました。茶葉をまっすぐに整えるように、スパッと切るように揉んでいかれる動きはとても流動的。「サッ、サッ、サッ、サッ」まるで茶葉がステッ

プを踏んで踊っているようでした。「おおっ!!」と、感動。茶葉の動きが今も目に焼き付いています。

このことに喚起され、茶畑を見に行くことにし、博物館の受付の方におすすめスポットを尋ねました。受付の方はとても詳しく、地図まで書いて教えてくださいました。大きな道路や、小さな茶畑をいくつも越えて行くと、ありました。見渡す限り、一面の茶畑。限りなく続く茶樹の絨毯に何本も立っている大きな風車(霜除けのファン)。その光景は雑然とした日常を忘れ去らせ、見る者の心を洗います。私は立ち止まり、しばらく静かに眺めていました。「見に来てよかった。」そう心から思える時間を過ごしました。

2010年9月25日(土)・26日(日)に「アリット



東野高等学校

## SAITAMA 連携美術館情報

### 入間市博物館アリット

「秋のお茶まつり」

9月25日(土) 月見の茶会[入間市茶道連盟・入間市博物館ボランティア会]16:00より受付開始(事前申込制・募集終了)16:30~20:30 抹茶@青丘庵/煎茶@池の上野点席。その他、手揉み茶実演会[八木手揉み茶道場(入間市茶道連盟・入間市博物館ボランティア会)]10:00~16:00 @玄関前屋根下/紅茶デモンストレーション[日本紅茶協会]11:00~13:30(2回実施)@中庭/特別展「野生植物で語る武蔵野の景観」ギャラリートーク14:00~15:00 @特別展示室/サイエンスバー[入間市博物館ボランティア会]13:30~15:00 @こども科学室  
9月26日(日) 抹茶Air点前と邦楽演奏会[入間市三曲連盟・入間市茶道連盟・「交差する風・織りなす場」実行委員会]11:00~11:30 @方丈庵/特別展「野生植物で語る武蔵野の景観」ギャラリートーク14:00~15:00 @特別展示室/リーフで入れた冷茶振る舞い @方丈庵13:30~15:30[日本茶インストラクター協会埼玉県支部]/「利休の茶室」「文人煎茶の茶室」「掛け茶屋」内部公開10:00~15:00 @常設展示室

### 川口市立アートギャラリー アトリア

「遊more(ユーモア)展」

10月6日(水)~11月7日(日)入場無料

スクラップを使って知的でウィットに富んだスクラップチュアを制作した木村直道とおおらかでハッピーなユーモアをかもしだす渡辺豊重のユーモア彫刻二人展。

ト秋のお茶まつり」が行われます。SMFも「アート楽座@入間」として、「方丈庵・(き)がわりの暇具」「東野高等学校建築ツアー」「ダンスパフォーマンス」「煎茶 Hako 手前・抹茶 Air 点前」など、たくさんの企画が現在進行中です!! 入間市博物館に美味しい狭山茶を飲みにいちゃいませ。(H.S)

## 利用者と育てるミュージアム

人が集えば事業の可能性も開ける。埼玉県立近代美術館は、「美術館サポーター」導入10周年。川崎市立美術館もいよいよ今年からボランティア募集を開始し、ほか3館(うらわ美術館・川口市立アートギャラリーアトリア・入間市博物館アリット)でも、年間あるいは短期で、学生・教員・主婦や退職者など幅広い年齢層が活躍している。

作品や来館者と直に接する表舞台で、活動とともに広がる美術館の楽しみかた。あなたはどんな出会いを体験してみたい?(A.O)



埼玉県立近代美術館「彫刻ボランティア」

## SMF Art Volunteer

美術館や博物館は作品を見に行く場所だと思われている方が多いと思いますが、もう一歩踏み込んで、ボランティアスタッフとして携わるという方法もあります。

例えば埼玉県立近代美術館では、作品ガイドを行う「サポーター」、ワークショップなどに携わる「サポートスタッフ」、彫刻のメンテナンスを行う「彫刻ボランティア」などがあります。活動を通してでなければできない体験や、そこしか出会えない人との出会いは、自分を取り巻く世界を広げてくれます。

SMFでも現在ボランティアスタッフを募集中です。

これまでのSMFの活動をご覧になったり、このニューズレターを読んで、SMFの活動に関心を持ってくださったあなた、SMFのボランティアに登録してみませんか?



SMFには、美術、建築、音楽、舞踊、パフォーマンス、文学、地域活動など様々な分野の人がいます。多くの出会いがきっと世界を広げてくれますよ。詳しくはこちらをご覧ください。(H.O)

http://www.artplatform.jp/event2010/volunteer/invitation.pdf

## SMFアートボランティア募集

SMFでは各事業に協力していただくボランティアを募集しています。楽しい仲間と一緒に活動してみませんか。登録していただくと、ボランティア保険に加入し各種の情報をお送りするほか、アートボランティア講座(9月19日・11月13日・1月15日の計3回)の優先受講や交流会への参加などの特典があります。ご希望の方は、住所・氏名・連絡先電話番号・fax番号・メールアドレスを明記の上、メール:SMF.vol@artplatform.jp または fax:048-824-0118で、SMFボランティア登録係まで。

ご自由にプリントアウトしてください。

スズキと話そう②



越谷vs北本 サッカー？アート？対決!!

2010年8月12日、地域からアートを発信している越谷「MAP・KAPL」と北本「キタミン・ラボ舎」の二つの団体が、北本駅から徒歩10分ほどの北本タワー内、wahのオフィスにあるフットサル場に集まりました。5月にもサッカー対決をしている二つの団体がここで再戦しました。身体を通したコミュニケーションのあと、フットサル場で座談会を行いました。さて、どんな話が飛び出すのでしょうか？

**スズキ**：地域というところにこだわってアート活動を行っている二つの団体ですが、どんなこだわりがありますか？

**北本**：現代美術というだけでなく、地域の文化を作っていくような活動にしたいと思っています。行政が中心となって始めた活動ですが、元々北本の中学校同級生が集まって、街でのデザイン活動を行っているKDPなど、北本の若い人たちとも協力して、市民、地域プロデュースの専門家、行政と協力して活動を作っていくと考えています。住民の活動、まちや地域づくりなども視野にいれながら、人と人が話したり、行動するきっかけを作りたいと思っています。例えば、今日来ていただいた北本タワー（キタミン・ラボ舎の拠点となっているビル）を地域に開放しています。みんなで映画を見ながらポップコーンを食べたり、地域の主婦の方に家にカレーを作ってもらってアーカイブしていったり、こちらが地域に出るだけでなく、入ってきてもらうこと

をしていきたいですね。

**越谷**：MAPは、人の行きかう商店街を舞台に、まちを「美術館」に見立てるアートプロジェクト。KAPLは、アートや美術教育の魅力を発信していくアートスペース。越谷では二つの活動を並行して行っていますが、作品を制作し、展示することはもちろん、どちらも「伝える」というところまでを作品としてとらえています。作品は人に見てもらって完成するという意識が強くあり、見てくれる人を意識して活動を続けています。例えば、MAPのメンバーは、作品出展の他にも運営など展示会を作るにおいて必要なことを全員ができるようになっています。地域の人と協働して展示会を作り上げることはとても貴重な体験になります。KAPLでは、作家にギャラリー内で展示してもらう際には、必ずワークショップやギャラリートークなどを考えてもらったり、見に来た人が主役になれるような取り組みを意識的に、地域の人が立ち寄れるような雰囲気を作り続けています。

**スズキ**：特徴的な二つの活動ですが、どんなところが独自であると考えていますか？

**北本**：「こういう活動があるんですがどうですか？」「こういうアートの制度があるんですけど、どうですか？」と中身を入れない状態で市民の方にプレゼンテーションしています。例えば、アーティストと協力していない家具をいた



いて集めたり、「おもしろ不動産プロジェクト」という空いている部屋を調査して使い方を想像したり。こちらは方法を提示するだけなんです。まちの方はアートだと思っていないかもしれない、現在はアートとして行っているけど何年かしたらアートでなくなることも多い。それでいいんだと思うんです。おもしろさを日常に求めています。

**越谷**：人の成長を視覚化して見せたいと考えています。美術教育が美術の一分野だとするならば、美術に関わることで人が成長することを見せるべきだと思うんです。MAPでは、作家や子どもたちの成長の過程をインタビューで追ってどのような心的な変化があるか見せていたり、KAPLでは、メンバーに美術教師が多いので、美術教育を多角的にとらえられるようなちょっとめずらしい取組を多く行っています。2010年8月には「美術教育は生きているか？5750分展Ⅱ」を行い、美術教師が中学校3年間の授業時間を使って作品を制作したり、人の成長をみせるような展示会を行うことが多いです。

**スズキ**：生まれてきた背景は違うものの、二つの活動の根っこ部分は共通していると感じました。まちの中には魅力的なものがたくさんあり、そのものを見つけ提示するのもアートの力のひとつ。二つの独自の活動にこれからも注目していきたいと感じました。サッカーは、チームプレイ。ルールがあってもお互いにゲームを楽しむことができるのは、集まった人が適材適所でがんばれるからこそ。信頼感やつながりがあるから長くアート活動ができるのかなと思いました。今回のサッカー対決では、越谷チームが負けてしまいましたが、再戦をしまし

う！ありがとうございました。(M.S)

**越谷**  
**MAP(まちアートプロジェクト)**  
http://townart.exblog.jp/  
2006年より埼玉県越谷市を舞台に、人の行きかう商店街(毎年約40ヶ所)に作品を展示し、まち全体を「美術館」に見立てるアートプロジェクト。アートを通して、商店主との関わりの中で作品が生まれ、作品を通して地域の人の関わりが生まれている。

**KAPL(コシガヤアートポイントラボ)**  
http://kapl.exblog.jp/  
2008年7月、埼玉県越谷市にオープンしたアートスペース。閑静な住宅街の中にある開放的な空間で、月に1本の企画展を開催。誰もが主体的にアートに関われる企画を通して、「アートで何ができるか」を皆で考えていける機会を創造していく。

**北本**  
**キタミン・ラボ舎**  
http://kitamoto-arts.blogspot.com/  
2008年8月に行われた「北本アーツキャンプ」がきっかけで発足した団体。アートと地域がともに手を取り、まちのこれからのあり方や新しい魅力を考え、今までの北本にはなかった試みを実践していくことを目標に活動を行っている。参加者は、現在約15名で、北本市民や市外からの学生等、幅広いメンバーが活動している。

北本市において土地に立脚した活動をどのように展開していけるのか、さまざまな方と意見交換して、アートという枠だけでなく、地域の文化、市民活動、まちや地域づくりなどについても話さきっかけをつくってきたい。

**スズキ(鈴木真里子 まちアートプロジェクト代表・美術教師)**

大学時代に作品制作・展示をしていく中で、美術館やギャラリーでは作品は興味のある人しか見てもらえないということに疑問が生じる。「アートはもっと身近に楽しむコミュニケーションがうまれるもの」をキーワードに、気軽に誰でもアートを感じられるような作品展示やワークショップ、シンポジウムの開催など地域に根付いた活動を展開。大学院では「地域との連携による展示会を活かした美術教育実践の開発」の研究を進める。美術を通して伝え合う力が高まり、自己と他者および社会との関係性について考えることのきっかけとなるという視点から美術や美術教育と携わっている。



知ってる？ 五感で楽しむ サウンドアート



サウンドアートとは何でしょう？まず思い出すのはSMFの参加アーティスト、松本秋則さんの「竹のサウンドオブジェ」。ひとつひとつが手作りの自動演奏装置は、竹という共通の素材を用いながら驚くほどバリエーション豊かです。2008年には北浦和の商店街数十店舗に設置され、ユニークで味わい深い音色を響かせました。「素朴な音を聴きながら気分よく働けた。」と店主からも好評。作品の前に、お客さんとの会話が弾んだそうです。

翌2009年には、河村陽介さん、三友周太さんによる「音の伝播-音の箱」が商店街に出現。いくつもの紙コップを取り付けた糸電話ボックスは、街の音を日常とはひと味違った形で体感できる装置です。繋ぐ糸を増やせば、拾う音の範囲も拡大。受話器を持つ



指先にかすかな振動の伝わる、懐かしも新しい糸電話遊びを、大人も子どもも楽しんでいました。

これらとは少し趣向の異なるのが、サウンドアートの第一人者として知られる藤本由紀夫さんの作品。記者の地元茨城で出会った「GARDEN-miyanomae」は、公園の広場に25脚の椅子を、毎日配置を変えて設置するというものでした。ゆったりと寛げば、耳に届く風や鳥の声。広場全体を眺めると、椅子とそこに座る人の姿が、リズムを奏でる音符のようにも見えてきます。音の鳴らない音楽を、この時初めて体験しました。

さて、以上から推測するに、サウンドアートとは、音の世界に体ごと入り込み、目と耳と

肌で味わえるもの。その場所についての発見や、人と人とのやりとりを生み出すもののようなものです。4人の個人的なアーティストを迎え、10月23日(土)、11月7日(日)、11月21日(日)に埼玉県立近代美術館で開催される「体感する美術-サウンドアートから」を、どうぞお楽しみに♪(A.O.)

編集者のつぶやき...

[S]再三の[M]文字校メグずに[F]ファイトだぜ☆みんな暑いなか執筆お疲れさまでした!(A.O.) / 夏休みも終わりました。さあ気合いを入れ直しますか(^\_^)(H.S) / ボランティア登録、お待ちしてます。(H.O.) / 9月から新学期!SMFも中盤戦突入!(M.S)